

「医療救護活動」報告

長岡市・木村医院

木村 嶺子

福祉避難所として、長岡ロングライフセンターに福島県南相馬市からの原発事故による被災者が入られたのは3月20日でした。長岡市医師会からの依頼で近医が2日ずつ交代で健康相談に赴き、6人の開業医で3月いっぱいを担当。私も3月26日、27日健康相談に行きました。

障害者を抱えた家族や、妊婦さんのいる家族が4組、併せて40人余の人たちが、先の見えない不安と共に、今までのんでいた薬をどうしたら手に入れる事が出来るか?と困っておられました。避難所には市から派遣された保健師が常任されていましたが、日替り勤務であり、一方私たち相談医も2日毎の交替だったので十分な対応が出来ていないと感じました。不安を抱えた被災者には、少しでも精神的な安定が必要と思い、4月以降連日、私が相談医として赴きたいと申し出て、医師会より許可をいただき、閉鎖まで関わる事が出来ました。

当初、被災者はお世話先に迷惑をかけたくないと遠慮して、不満をもらしませんでした。私が短時間でも毎日避難所に顔を出すうちに、具体的

な要求も（介護ベッドの利用、介護サービス、入浴サービス、歯科治療、専門病院への受診など）出るようになり、私を窓口として市の保健師へQOL向上のためのお願ひもする様になりました。

医療介護については、応じられたかと思いますが、毎日の食事については、配達された毎回の弁当に閉口されており、食事から体調を崩した方もおられました。一番食べたいとされたのは、たっぷりの野菜類と、温かい汁物でした。弁当屋に注文しても内容の改善はむずかしく、願ひは叶いません。そこで、地区の婦人会に声がけして、定期的に希望メニューの炊き出しをしていただき、被災者には喜ばれました。

医療相談のみならず、雑多な相談に応じられたのは、気心が知れる人間関係があってこそ、と思っています。今でも、市内に居を構えた人が、相談に来院される事があります。

被災者の方々が、一日も早く、以前の平和な日常生活に戻られる事を願っております。

以上